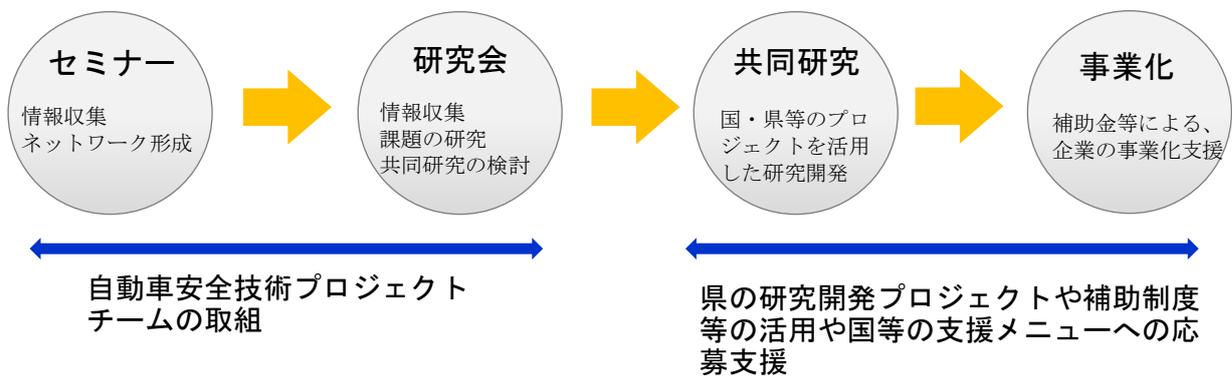


# 自動車安全技術開発支援事業について

## 1. 目的

近年、自動車メーカー等を中心に、自動車安全に寄与する製品の開発・販売が行われ市場が形成されつつあるが、中小企業や中堅企業の参入は一部にとどまっている。

こうしたことを踏まえ、中小企業等を対象に、自動車安全技術に係るセミナー及び研究会を開催することにより、自動車安全に寄与する製品開発の取組を促すとともに、研究者・技術者等のネットワーク形成を図ることにより、県内中小企業等による産学行政連携の研究開発や実用化へ結びつけていくなど、オールあいちでの研究開発の取組を促進していく。



## 2. 取組内容

### (1) 研究者情報のリスト化及び公表

県内大学で自動車安全技術や交通事故防止に関する研究を行っている研究者のリストを作成し、県の Web サイトで公開。(平成 30 年 7 月末：15 大学 84 名)

### (2) セミナーの開催

自動車安全技術関連の県内大学の技術シーズや、製品化に成功している企業の事例等を紹介するセミナーを開催。平成 30 年度は 10 月 25 日と 11 月～12 月上旬の計 2 回を予定。

<平成 29 年度実績>

第 1 回 H29.10.2	(株)豊田中央研究所 リサーチ・アドバイザー 脇田 敏裕 氏 「自動運転のための走行環境認識」 愛知工業大学 情報科学部 情報学科 教授 中條 直也 氏 「安全運転を支えるコンピュータ・システム ～自動運転に向けた現状と課題～」 【出席者】 27 名 (企業 20 名(内中小企業 11 名)、大学・研究機関等 7 名)
第 2 回 H29.11.2	英弘精機 (株) 専任マネジャー 内堀 崇 氏 「路面状況把握による安全性の確保」 愛知県立大学 情報科学部 教授 小栗 宏次 氏 「世界一賢い“知的道路”による自動車安全技術開発」 【出席者】 39 名 (企業 25 名(内中小企業 20 名)、大学・研究機関等 14 名)

### (3) 研究会の開催

これまでのセミナー参加者のネットワークなどを活用し、自動車安全技術に関する課題の検討、関連情報の収集及び共同研究開発の検討等を行うため、平成 30 年度は、2 テーマの研究会を実施予定。

#### <平成 29 年度実績>

研究会名	IoTによる走行リスク予見技術研究会
座長	名古屋工業大学 電気・機械工学専攻 浅野勝宏 教授
構成	2 大学・研究機関、7 企業、4 団体等 21 名
概要	異常気象が常態化し、走行時の自然リスクが拡大する中、走行路面のリスク予見技術が不可欠となっているため、これまでの様々な取組を討議等で情報共有し、IoTを活用して統合した時の効果予測や課題抽出等を行う。
開催状況	2回

研究会名	ビッグデータ活用型交通安全管理システム研究会
座長	豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 松尾幸二郎 助教
構成	4大学・研究機関、6 企業、2 団体等 31 名
概要	ビッグデータを活用した、交通安全のためのデータ管理・分析システムの構築に向け、現場での経験に基づく従来手法とデータから得られる知見との有機的な融合を図るため、研究事例紹介やニーズ紹介を通じた議論・課題抽出等を行う。
開催状況	3回

#### ～参考～

平成 27 年度に取組を行った 2 つの研究会は重点研究プロジェクトに採択され、社会実装を見据えた研究開発を実施。【研究期間：平成 28～30 年度（3 年間）】

研究テーマ	眼球運動を指標としたドライバ状態検知技術の実用化
参画機関	中部大学、(株)東海理化電機製作所、東海光学(株)、(株)ナックイメージテクノロジー 他
狙い	居眠り運転防止による自動車事故低減
期待される成果	ドライバ状態検知・警告システム

・個人の眼鏡に着脱式の眼球計測装置

普段からかけ慣れ、**親しみのある眼鏡**を使える。  
自分**好み**の**フレーム**や**サングラス**を選べる。



**眼球と頭部**の運動を**高精度**で計測することで  
**ドライバの状態**を検知

研究テーマ	交通事故低減のための安心安全管理技術の開発
参画機関	愛知県立大学、(株)キクテック、(株)東海理化、AZAPA(株)、(株)エコシステムズ 他
狙い	交通事故低減及び道路情報産業創出
期待される成果	次世代路面標示、道路安全管理技術

